

「世界に響くタケミツ・トーン」

武満 徹

(対象：中学3年生)

(出典「不屈の心(中学生用)」p31～p40)

1 主題名 「個性を生かし、伸ばしていく」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(5) 個性の伸長

自分のよさに気づき、個性を伸ばしてよりよい充実した生き方を求めようとする態度を育てる。

(2) 資料名 「世界に響くタケミツ・トーン」 (関連資料「私たちの道徳」中学校 P39)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

中学校の内容項目1－(5)は、「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する」ことをねらいとしている。

人間は一人一人姿や形が違うように、それぞれ異なったよさをもっている。しかし、同時に足りないところもある。他人と比べることなく、自分の中のよさに気付くことは、価値ある自分を形作るための個性を生かす第一歩となる。

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる。そのため、自分の人生をよりよく生きたいと願い、その方法を推考するようになる。現在の自分と向き合い、将来こうありたいと自分を見つめることは、自己の向上を願って生きていく上で極めて重要である。その際、自己の欠点や短所の追求のみに偏ることなく、自己受容、自己理解、自己対話を進めていくことでかけがえのない個性を伸ばしていくようにさせたい。

郷土にゆかりのある人物が登場する本資料を通して、自己の優れている面の発見に努め、自己の向上のために必要なものを広い視野で見つけようとする態度を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

中学生の時期は、よりよく生きたいという気持ちが強くなる一方で、他人と比較して自分の足りないところばかりが気になったり、目立つのを嫌って自分の良さを出すことをためらったりする傾向がある。また、他人と同じように扱われることを嫌ったり、反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。

資料には、主人公の音楽に影響を与えているものとして、日本の伝統的な楽器である箏や琴が出てくる。これらは1年次の音楽で学習するため、内容理解のためには、それ以降の実施が望ましい。

授業では、色で自分のカラー(個性)を表すアンケートを生徒にさせ、それを全体に示すことで、生徒一人一人の個性は異なり、それぞれに独自の持ち味があることを気付かせる。また、ワークシートに自分の思いや意見を書かせることで、

生徒一人一人の考え方や感じ方を知り、考えのよさや変化を見取ることができるようにする。また、机間指導を通じて意図的指名を行うことで、多様な考えを導き出したい。一人一人の個性を伸ばしていくためには、自分自身を振り返り、良さを認めてそこを伸ばし、自分に自信をもつことが大切であることを感じ取らせたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、祖父が本県出身者で、日本を代表する作曲家である武満徹の音楽との出会いから、挫折、成功までの姿が書かれている。音楽との出会いはシャンソンであった。そして、音楽家になりたいという夢をもち独学で学び始めた。二十歳のとき、自信満々で発表した作品は周囲から厳しい評価を受けたが、武満本人は自分自身の音楽とひたむきに向き合い続けた。やがて、世界的な作曲家であるストラヴィンスキーに認められ、その後世界を舞台に活躍する作曲家となった。

挫折から立ち上がり、自分を信じて音楽に向き合う姿が生徒の心を揺らす。主人公の姿を通して自分のよさに気付かせ、個性を伸ばすことで今後の人生が充実するという自覚を深めさせたい。

4 授業の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント


「武満さんがやりたかったことはなにか」、また、「音楽と武満さんの関係」が分かる部分に線を引きながら、事前に読ませる。



(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
武満さんの紹介	31 ～ 33	日本を代表する作曲家であり、和楽器との接点があったことを押さえる。
音楽との出会い	33	活躍が続き、日本でも注目されて自信をもっていたことに気付かせる。
1度目の挫折(ピアノ曲)	35 ～ 36	自信作を酷評され、人生で初めての大きな挫折を味わったときの武満さんの思いを考える。
批判的な評価を受けつつも、自分らしさのある音楽を作りつづける。	36 ～ 37	仲間とともに工夫も加えながら、作曲を続ける。批判的な評価ばかりうけるが自分らしさを失わない武満さんの気持ちを考える。
世界的な作曲家から認められ、一躍有名になった。	38 ～ 39	目標をもち、それに向けて努力することが大切であることと考えさせる。

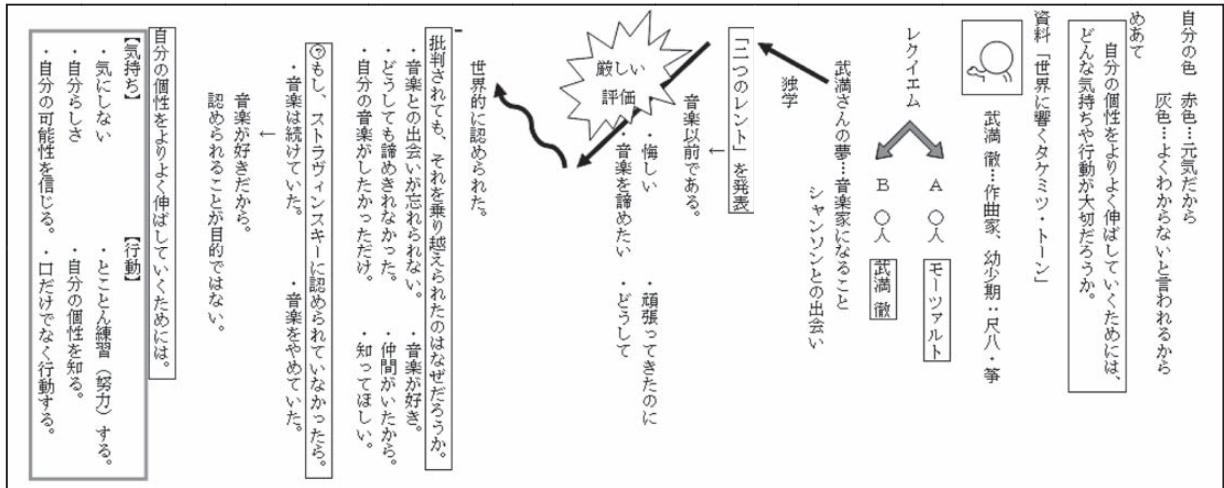
5 授業の展開

(1) 本時

過程	学習活動	時間	主な発問(T)と予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点
導入	1 個性に関するアンケート結果を見る。	7分	事前アンケート 〔・ 自分を色で表すと何色ですか？理由も書きなさい。〕	○ 事前のアンケート結果をもとに、一人一人の思いを学級で共有する。 ○ 全員でめあての読み合わせをさせる。
	2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の個性をよりよく伸ばしていくためには、どんな気持ちや行動が大切だろうか。</div>			
展開	3 武満さんの紹介を聞く。	26分	T 2曲流します。自分が好きだなと感じた方に手を挙げてください。 T 武満さんの夢は何ですか。その夢を見つけたきっかけは何ですか。 T 「音楽以前である」と言われたとき、武満さんはどんな気持ちだっただろうか。 ・ 悔しかった。 T 先ほど流した2曲のうち、武満さんの作品はBでした。なぜ、Bを選びましたか。なぜ、Aを選びましたか。 ・ 不協和音だった。 ・ 響きがきれいだった。 T どんなに批判を受けても、それを乗り越えられたのはなぜでしょうか。 ・ 音楽が好きだったから。 ・ 自分の音楽をしたかっただけで認められたかっただけではないから。 ・ あきらめなかった。 T もし、ストラヴィンスキーに認められていなかったら、武満さんはその後どうしたのでしょうか。音楽を続けるのでしょうか。 ・ 続けていたと思う。 ・ 諦めていたと思う。	○ 「雨の樹」を聞きながら、紹介する。 ○ Aモーツァルトの「レクイエム」とB武満の「弦楽のためのレクイエム」を流す。 ○ 時間をかけずに要点を押さえていく ○ 武満さんになったつもりで状況を思い浮かばせ、武満さんの思いを感じ取らせていく。 ○ Bを選んだ人はストラヴィンスキーになったつもりで、Bの良さを言わせ、Aを選んだ人には、Bを選ばなかった理由を言わせる。 ○ ワークシートに書かせる。机間指導を通じて、意図的指名を行う。 ○ 自分の弱さと向き合うために、ゆさぶりをかける。
	4 武満さんの曲を比較して聴く。			
	5 武満さんの夢を考える。			
	6 「二つのレント」を発表して、厳しい評価を受けたときの武満さんの気持ちを考える。			
	7 武満さんの「レクイエム」はBだったことを知る。			
	8 度重なる悪評を乗り越えられたのはなぜかを考える。 			
	9 ストラヴィンスキーに認められていなかったら、武満さんはどうしていたかを考える。			

展開	<p>10 めあてについて考える。</p> 	8分	<p>T 自分の個性をよりよく伸ばしていくためには、どんな気持ちや行動が大切だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を信じる。 ・好きなことを見つける。 ・自分を見つめなおす。 ・人の意見に左右されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を閉じさせ、自分の気持ちと向き合って書かせる。 ○ ワークシートに書かせる。 ○ 机間指導を通じて、意図的指名を行う。
終末	<p>11 『私たちの道徳(P39)』を読む。</p> <p>12 授業を受けて感じたこと・意見を書く。</p>	9分		<ul style="list-style-type: none"> ○ 余韻で終わる。 ○ ワークシートに書かせる。

(2) 板書



6 実践後の評価

- ワークシートを活用することで、生徒の考えや気持ちを見取りやすくなり、授業展開(意図的指名)やその後の授業づくりに活用することができた。
- 武満さんの曲を聴かせたり、他の作曲家の曲と聴き比べたりすることによって、興味を高めることができた。
- 授業実践後の行事(文化祭)のテーマが「Colors」だったため、取組への意欲向上へとつながった。



- 板書に心情曲線を取り入れ、武満さんの状況や思いを浮き沈みで表すことで、資料価値を簡潔・明瞭に理解・整理することができ、振り返りや思考の場面で活用することができた。また、意見の分類(気持ち・考え, 行動)を加えることで、思考の深まりが見られ、多様な意見を引き出すことにつながった。

《生徒の感想の一部》

- ・ 物事がうまくいかなくても、自分の夢をずっと追いつけているといつか叶う日が来るから、その日まで諦めずに頑張ることが大事だと思った。
- ・ うまくいかなくても、自分の自信がある部分を伸ばしていかないと、前には進めないと思った。

『故郷もどき』の鹿児島で
向田邦子

(対象：中学2年生)

(出典「不屈の心(中学生用)」p41～p51)

1 主題名 「充実した生き方」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(5) 向上心・個性の伸長

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

(2) 資料名 「『故郷もどき』の鹿児島で」 (関連資料「私たちの道徳」中学校p38～p39)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

「汝自身を知れ」「吾日に三たび省みる」という言葉があるように、これまでや現在の自分、そして将来こう在りたいという自分を静かに見つめ直すことは、自己の向上を願って生きていく上で重要なことである。また、一人一人の人間は姿や形が違うように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。充実した生き方は、そうした自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得される。また、今の時代は多くの情報が飛び交い、いじめ、自殺、ひきこもり等の多くの社会的な問題が起きている。老若男女を問わず、一人の人間が人間として生きることの価値を冷静に考えることは難しくなっている。心も体も大きく成長する中学生の時期だからこそ、これまでの自分や現在の自分、そして将来こうありたいという自分を見つめ直し、自己の向上を願って生きていくことが重要になってくる。優れた先人や周囲の人々の生き方に学び、自己の優れている面の発見に努め、自己の向上のために必要なものを広い視野で見つけようとする態度を育てたい。

(2) 児童生徒の実態【児童観(生徒観)】

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる。「人生いかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになる。このことは「よりよく生きたい」という願いの裏返しであり、価値ある人生の実現に向けて限らない模索をしていることを表している。一方で、自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較において捉えたりするために、その至らなさに一人思い悩むことも少なくない。そして、他人と同じように扱われることを嫌ったり、反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。

ア 特別活動

中学校生活も後半に入り、生徒会活動をはじめ、部活動や行事など2年生が中心となって活動するものが増えた。生徒の中には、自分の立場を自覚し積極的に自分の個性を出し、学校に貢献したりしようとする姿が見られる生徒が出てきた。一方で自分自身のことについて考えることができず、その場限りの楽しさを求めて、ただなんとなく生活している生徒も見受けられる。本時を通して、努力して自分の個性を見つけ、その個性を真剣に見つめて向上させていこうとする態度を育てていきたい。

イ 総合的な学習の時間

生徒たちは職場体験学習やこれまでの進路学習を通して、自分の将来の夢や理想について考えてきた。その中で、自分の夢や理想を強く求める反面、自分の置かれている現実への認識が不十分で自分を過大もしくは過小評価して、自分を見失ったり、妥協したりしてその理想が達成できないと意欲までも喪失してしまう生徒も少なくない。そうした中で、どんな障害や困難に直面しても、自分の個性を伸ばしている人の姿を通して、自分の個性や向上したいと思う気持ちの大切さを理解し、自らの人生を自らの手で切り拓いていく態度を育てたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、直木賞受賞作家である向田邦子さんが幼少の頃の本との出会いの中で自分の個性に気づき、自分の生き方に大きな影響を与えたことが書かれている資料である。向田邦子さんの文章は、鋭い人間観察に基づく描写が特徴で、小説家として高い評価を得た。この感性に大きな影響を及ぼしたのは、幼少の頃に出会ったたくさんの本であり、中でも夏目漱石の作品に惹かれていた。五年生の時、親に内緒にこっそりと父の本を読みあさる向田邦子の感性の芽生えや成長が感じられる。また、資料の中で向田邦子さんは、四十六歳の時に癌にかかってしまうが、その際の手術の時の後遺症で利き腕の右手が不自由になってしまいます。その困難な状況においても向田邦子さんは、自分の個性を伸ばすことを大切に考え、たくさんの作品を後世に残すこととなります。

指導に当たっては、自己の欠点や短所の追求のみに偏ることなく、かけがえのない自己をまずは肯定的にとらえるとともに（自己受容）、自己の優れている面などの発見に努め（自己理解）、自己との対話を深めつつ、更に伸ばしていくようにすることが大切である。また、自分のよさは自分では分からないことが多いので、生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。その意味でも、優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で、充実した人間としての生き方についての自覚を深め、自分自身のよさや個性を見いだしていくことができるようにすることが大切である。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

本資料は、事前に資料を読ませておき、内容を把握させておく。その際、以下の視点で読ませ、サイドラインを引かせる。

ア 視点1：向田さんが本の世界に吸い寄せられていった気持ちを考える。


イ 視点2：左手で執筆することを決めた向田さんの思いを考える。

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
向田さんが本の世界に吸い寄せられていった場面	43	自分の好きなことに興味をもつ中で自分の個性に気づいていく向田さんに共感させる。
タウン誌からの連載の依頼を受けた場面	46	困難な状況においても自分の個性を伸ばすために何とかしてやり遂げる決意をする向田さんの強い気持ちに気づかせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 読書を通して自分の考え方が変わったり、何かを発見できたりした経験はないだろうか。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自己を見つめ、個性を伸ばすにはどうすればよいだろうか。</p> </div>	5分	<p>T 事前のアンケート結果を見てクラスみんながどのように考えているのかを知ろう。</p> <p>T 自己を見つめ、個性を伸ばすためには、どうすればよいか考えてみよう。</p>	<p>○ 事前にかけてもらったアンケートを紹介し、自分の行動を振り返る。</p>
展開	<p>3 資料「『故郷もどき』の鹿児島島で」を読み、向田さんの生き方について話し合う。</p> <p>(1) 向田さんが本の世界に吸い寄せられていった気持ちを考える。</p> <p>(2) 左手で執筆することを決めた向田さんの思いを考える。</p> <p>4 個性を伸ばすためには何が大切か考える。</p>	35分	<p>T 向田さんが本の世界に吸い寄せられていったのはどうしてだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいと思った。 ・何となく惹かれた。 ・大人扱いされて心地いい。 <p>T 左手で執筆することを決めた向田さんの思いを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もしないのはもどかしい。 ・後悔するかもしれない。 <p>T 個性を伸ばすためには何が大切だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと本を読んで自分 	<p>○ 写真を掲示し、人物と作品を紹介する。</p> <p>○ 自分の好きなことに興味をもつ中で自分の個性に気づいていく向田さんに共感させる。</p>  <p>○ 困難な状況においても自分の個性を伸ばすために何とかしてやり遂げる決意をする向田さんの強い気持ちに気づかせる。</p> <p>○ 自分の個性を生かした生き方は、そうした自分の人生への前向き</p>

	5 本時の感想を書く。		<p>の考えを出していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことは最後までやり遂げる。 <p>T 感想用紙に本時の感想を書きなさい。</p>	<p>な取組を繰り返す中で見つけられることを気づかせる。</p> <p>○ 授業の感想をワークシートに書かせる。</p>
終末	6 「私たちの道徳」を読み、考える。 (P38・39)	10分	<p>T 「私たちの道徳」を読みましょう。</p> <p>T 自分のカラー（個性）を見つけよう。</p>	<p>○ 自分を見つめ、個性を伸ばすには自分のカラー（個性）を輝かせることを「私たちの道徳」から感じ取らせる。</p>

(2) 板書

個性の伸長

自己を見つめ、個性を伸ばすにはどうしたらよいだろうか。

『故郷もどき』の鹿兒島で

向田 邦子

向田邦子のパネル

一、向田さんが本に吸い寄せられていったのはどうしてだろうか。

- ・おもしろいなと思った。
- ・何となく惹かれた。
- ・大人扱いされて心地いい。

二、どうして左手で執筆することを決めたのだろうか。

- ・何もしないのはもどかしい。
- ・後悔するかもしれない。

個性を伸ばすには、何が大切か。

- ・もっと本を読んで自分の考えを出していく。
- ・やりたいことは最後までやり遂げる。

6 実践後の評価

- 資料の文章量が多いので、資料を読みながら向田さんの生き方や考え方の中で自分が共感したところをサイドラインを引かせ、その後の展開を考えやすいように工夫した。
- 朝読書を通じてたくさんの本との出会いがあるが、授業後に自分の読みたい本や作者との出会いを大切に考える生徒が増えたことで今後の読書活動がより一層の充実したものになると感じられた。

《生徒の感想より》

- 邦子さんは自分の考えがしっかりとあつてすごいなと思いました。それは、本を読むことでどんどん強くなっていったんだと思いました。私は、本を読むことが好きでたくさんの本を読むけれど、本を読んだからといって自分の考えが強くなることは邦子さんに比べたら小さいと思いました。でも、私は夢への思いが強くなりました。邦子さんの生き方から私は、自分の夢への思いを大切にどんどん伸ばしていきたいと思いました。
- 向田さんにとって鹿兒島での2年間は大切だったように、今の時期しか経験できないことが何かあると思うので、今を大切にして何かあってもすぐにあきらめてしまうことがないように自分の考えを築いていきたいです。

「伝えたいこと」

椋 鳩 十

(対象：中学1年生)

(出典「不屈の心 (中学生用)」p71～p80)

1 主題名 「善意や行為にこたえる感謝のころ」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 2-(6) 感謝

多くの人の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝する気持ちをもつ。

今までの自分の頑張りを支えてくれたものは何かを考え、自分の本当の気持ちと向き合う態度を養う。

(2) 資料名 「伝えたいこと」 (関連資料 「私たちの道徳」 中学校 p82～p87)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

本主題は学習指導要領の内容2-(6)「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。」ことをねらいとして設定した。

私たちは生まれてから今まで多くの人と出会い、互いに支え合い協力し合いながら生きている。特に、小・中学生の頃は先生方との出会いや、人以外にも本であったり、自然であったりと様々なものに出会い、影響を受けやすい。素晴らしい出会いにするためには、出会えたことに対する感謝の気持ちが根底になければならない。さらに、そうした感謝の気持ちを素直に表現し、豊かな人間関係を築いていく力も身に付けさせていきたいと考える。

そこで、本主題では資料「伝えたいこと」を通し、多くの人や自然、ものに支えられ、頑張る気持ちが生みだされていることに気づかせたい。また、これからどのようにして感謝の気持ちにこたえていくのかということを考えさせ、自分を見つめ直し自分の本当の気持ちと向き合う機会にさせたい。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

生徒の経験をアンケートで見取り、頑張った経験が多いことに気づかせる。また、普段の生活の中で感謝をする相手は親が最も多く、先生や友達、部活動の先輩等も多かった。一方で本や自然、動物といった生き物や音楽に対しても感謝の気持ちを日頃もっていることが分かった。しかしながら、中には「一人で頑張ってきた」と考えている生徒も見受けられる。また、中学生は思春期を迎える時期にあたり、感謝の気持ちをもちつつもそれを上手く表現できないこともある。そこで、自分が今まで頑張ることができたのは、周りの人やもの、自然等があるからだということに気付かせ、自分が何に支えられて頑張る気持ちを生みだしているのか、ということをも改めて考えさせたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は久保田彦穂（椋鳩十）が児童文学の巨匠になるまでの過程を書いた作品である。彦穂は雄大な自然の中で育ち、学生の頃に出会った教師や本から影響を受け、文学の道を志し人生を歩き出す。しかし、戦争中に自由を描く彦穂の作品は発行禁止となり小説を書くことをやめてしまった。そんな中、少年倶楽部の編集長が彦穂の才能を認め援助を申し出てくれた。それを機に学生の頃に影響を受けたことを思いだし、今度は自分が子どもたちに感動を伝えたいと物語を書くことを決意する。その後、数々の児童文学作品を書き、作家としての高い評価も得て多くの賞を受賞するようになったのである。

彦穂が多くの賞を受賞するようになるまでに、多くの人や本、自然の影響があったことから、自分たちは多くの自然、本、人々の善意や支えにより今の自分があることに気づかせ、感謝する気持ちを持たせたい。また、それに対してこれからどのようにしてこたえなければいけないのか、というところまで考えさせたい。

4 授業の展開にあたって

(1) 資料を読ませるポイント

椋鳩十の資料として取り扱うよりも、本名の久保田彦穂として授業を進め、気持ちを考えさせることと、資料を読ませる時間をできるだけ短くすることから、授業では(2)に示した取り上げる場面を限定した読み物資料に再構成したものを配布し、「不屈の心」にある読み物については、授業を終えた後に、朝読書等で読ませるようにした。

また、授業の範読の中でサイドラインを引かせ、印象に残った理由とともに発表させるようにした。

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
本との出会い	72 ～ 73	先生方との出会いや自分の住んでいた環境により、本へ興味が出てきたことを押さえる。
発禁処分を受けていた彦穂	75 ～ 76	自分の作品を認めてもらえなかったときの彦穂の気持ちを考えさせる。
須藤憲三氏との出会い	75 ～ 77	自分を信頼し、本を書こうと決心したときの彦穂の気持ちを考えさせる。
彦穂の活動	78 ～ 80	子どもたちのためにいろいろな活動を行ったことをおさえる。

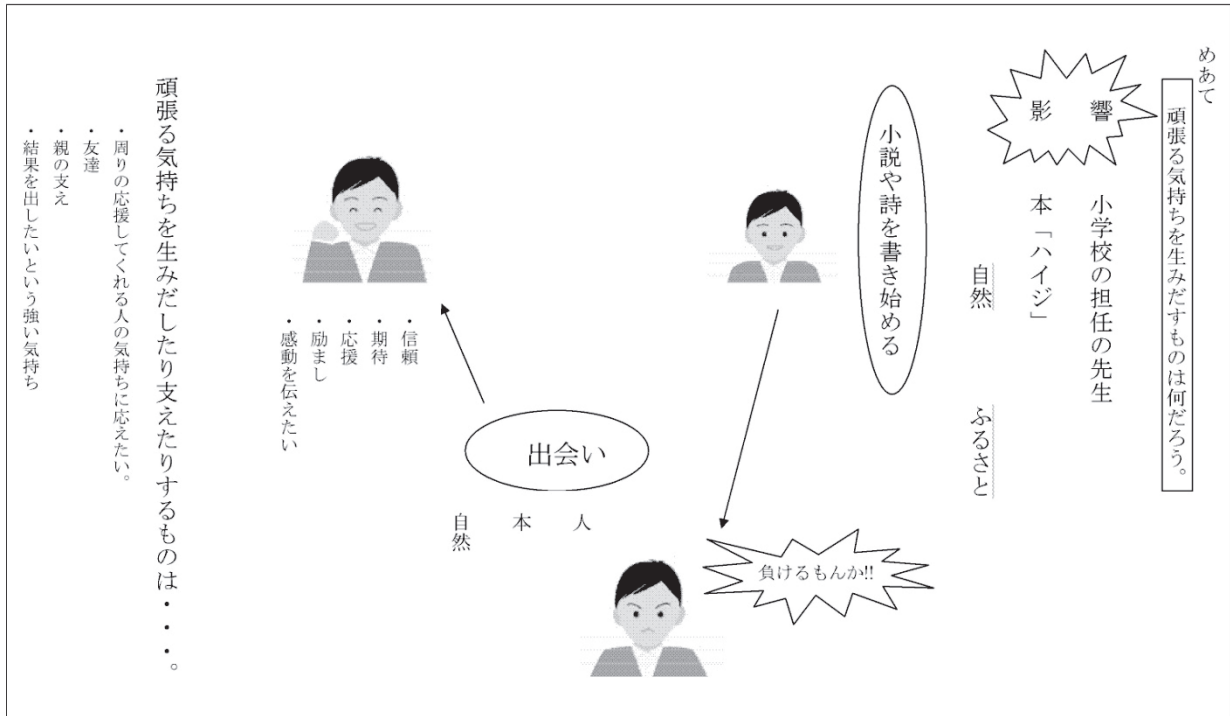
5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動	時間	主な発問(T)と予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点		
導入	1 今までに一生懸命頑張ったという経験はあるか考え発表する。	7	T 今までに一生懸命頑張ったという経験はありますか。 ・部活動の練習 ・習い事 ・体育祭の応援団	○ アンケートの結果をみて自由な雰囲気公开发表させる。 ○ 本時のめあてを明確にすることにより、生徒が学習に見通しをもてるようにする。		
	2 学習のめあてを確かめる。				頑張る気持ちを生みだすものは何だろう。	
展開	3 彦穂の気持ちを考えながら範読を聞く。	23	T 小説や詩を書き始めたきっかけは何だったのだろう。 ・小・中学校の先生の影響 ・日本アルプスの美しい夕焼けと、「ハイジ」の世界観が重なり、そこで大きな感動を受けた経験	○ 彦穂の気持ちや行動を考えさせながら聞かせる。 ○ 資料の中に線を引かせ、彦穂の思いを考えさせる。 ○ ヨーロッパと日本アルプスの美しい風景をスライドで流す。		
	4 彦穂の気持ちについて考え、発表をする。 (1) 小説や詩を書き始めたきっかけ				T 児童文学を書くことにあまり乗り気でなかった彦穂が児童文学を書く決意をしたのはなぜだろう。 ・「ハイジ」から受けた感動や小さい頃体験した自然の美しさを子どもたちに届けたいと思ったから。 ・須藤さんが信じ続けてくれたので、これにこたえたという強い気持ち	○ 作者の気持ちの変容に気付かせ、ワークシートに記入させる。 ○ 机間指導を行い、考えが進まない生徒に対して助言を行う。
	(2) 児童文学を決意したとき					
	5 自分自身を振り返って考える。	15	T 頑張る気持ちを生みだしたり、支えたりしたものは何か、考えてみよう。 ・周りの応援してくれる人の気持ちに伝えたい。 ・友達、親の支え ・家族の励み	○ 資料を閉じさせ、自分自身の気持ちと向き合うよう指示し、ワークシートに記入させる。 ○ 机間指導をし、自分の考えを書いているか確認する。 ○ 自分自身の考えを發表させる。		

終末	6	授業の感想を書く。	5	T 本時の授業の中で感じたことや考えたこと等の感想を書こう。	<input type="radio"/> 本時の授業の感想を書き、これからの生活に意欲をもたせる。 <input type="radio"/> 教師の体験談を話す。
	7	教師の説話を聞く。			

(2) 板書



6 実践後の評価

- ワークシートを活用することで、生徒の考えや気持ちを見取りやすくなり、授業展開（意図的指名）やその後の授業づくりに活用することができた。
- 板書に心情曲線や実物大の見本などを取り入れることで、資料内容を簡単に理解・整理することができ、振り返りや思考の場面で活用することができた。また、意見の分類（気持ち・考え，行動）を加えることで、思考の深まりが見られ，多様な意見を引き出すことにつながった。

（生徒の感想文より）

- 自分はいつも、色々なことを一生懸命、取り組んでいるつもりだが、いつもそうしていくことができるのは、周りの人や物，環境があるからなのだと感じた。自分が支えられているのだから，他の人にも声を掛けてあげたい。
- 一生懸命，何かをするにあたって，家族や友だちなどの信頼できる人々のありがたさを痛感することができた。もし，くじけそうになっても周りの支えを力にして，全力で頑張っていこうという前向きな気持ちになることができた。
- 自分を支えてくれている家族や友だちに感謝したい。

**「芸能文化の振興のために」
白井松次郎，大谷竹次郎**

(対象：中学2年生)

(出典「不屈の心（中学生用）」p81～p90)

1 主題名 「よりよい社会の実現」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 4－(5) 勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉

公共の福祉や社会の発展を支えている人々の活動を知り，進んでよりよい社会の実現を目指そうとする態度を育てる。

(2) 資料名 「芸能文化の振興のために」

(関連資料「私たちの道徳」中学校 p172～p175，p206～p211)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

働くことは，人間がよりよく生きるために重要である。人は労働によって社会との結びつきを実感し，他人の役に立っているという思いが充実感を生み，生きがいになる。中学2年生は将来の職業について考える。その際，自らの適性や好み，資質・能力などの自己理解が不可欠であるが，それだけでは十分ではない。生きがいとなるような職業について考える必要がある。

本資料を通して，勤労の尊さや「働く」ことの意味，それを通して得られる「生きがい」について考えるようにさせたい。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

中学生は，自分の目的を実現するためや，気の合った仲間と一緒にする仕事は意欲的に取り組むが，共同で行う仕事や集団での仕事などについては，これを厭う傾向も少なくない。自分の進路や職業について関心が高くなってくるこの時期に，勤労の尊さや意義について考えられるようにするとともに，働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることや公共の福祉に努めようとする態度を育てることが大切である。特別活動における学級活動や進路学習との関連を図り，自らの将来の生き方に対する考え方をさらに深めさせる機会としたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は，様々なエンターテインメントの分野で幅広い事業を展開している松竹株式会社（現：松竹芸能）の創業者である白井松次郎と大谷竹次郎の双子の生涯について描かれている。松次郎は売店の権利を握っていた白井家の婿養子となり，劇場のスポンサーとして働いていました。竹次郎は23歳で劇場の持ち主となり，初めての公演を明日に控えた前日，建物が老朽化して危険であることを理由に突然警察から興行中止命令が出され，このままでは引き下がれないと，今まで以上の芝居興行をやろうと決意を強くする。大阪は松次郎，東京は竹次郎という体制を確立し，兄弟で日本の劇場に残る悪しき習慣を打破し，演劇興行の近代化という改革を兄弟で推し進める。歌舞伎の他にも文楽，映画産業，さらには海外公演など，日本の古典芸術を海外でも有名にしようと力を尽くしました。

本資料を通して，様々な困難を乗り越え，自分の理想とする文化の創造と社会の実

現に尽力する姿から、自らの理想を力強く実現しようとする態度につなげたいと考える。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：両親の仕事を手伝う兄弟はどのような気持ちだったのかを考える。

イ 視点2：竹次郎が座主となって初めての興行をその前日に中止命令がくだされたときの気持ちを考える。

ウ 視点3：現在では世界中に誇れる日本の伝統芸能は、それに携わってきた人々のどのような努力によって支えられてきたのかを考える。


(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
小学生の二人が両親の仕事を夢中で手伝う場面	83 ～ 84	劇場の売店だけでなく、夏祭りでも過酷な手伝いをしていたが、決して両親に甘えず手伝う気持ちがあったことに気付かせる。
興行中止の命令が出される場面	85 ～ 86	竹次郎が座主として初めての興行前日に建物の老朽化を理由に中止命令を出され、その悔しさからこれまで以上の芝居興行をやろうと強い決意をしたことに気づかせる。
常盤座の再建を手がける場面	86 ～ 88	これまでの悪い習慣を改善するための苦労と演劇興行の近代化と改革をすすめる二人にはどのような気持ちがあったのかを考えさせる。

5 授業の展開

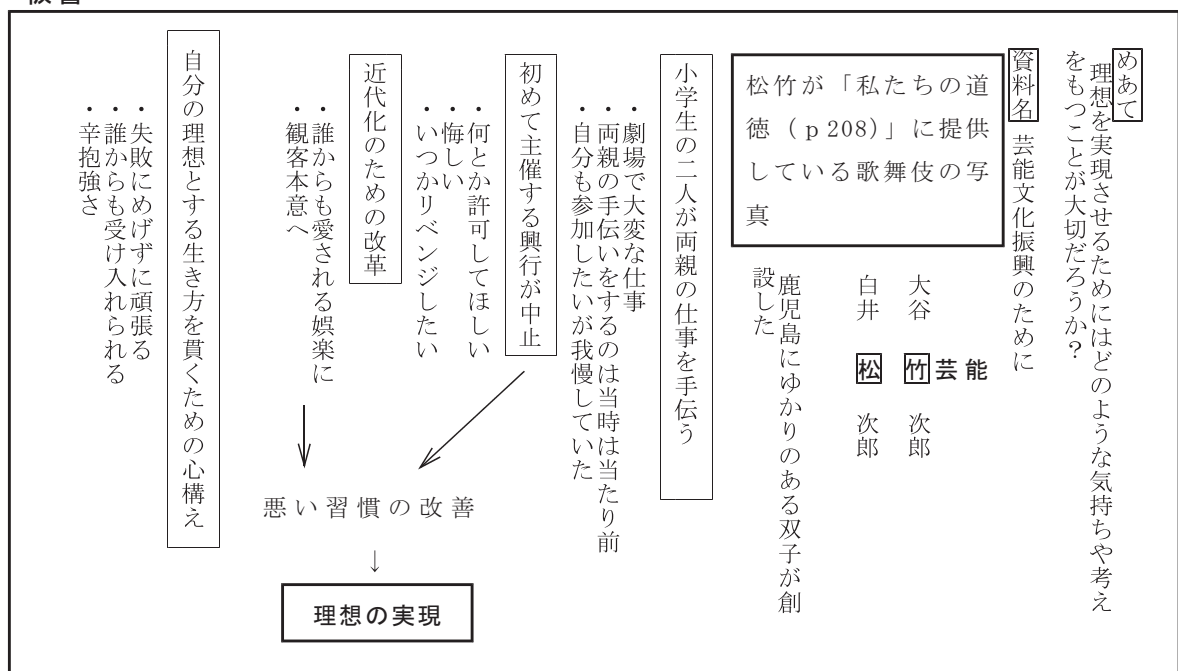
(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	1 自分の理想と現実にふれる。	10分	T 学校生活や家庭生活において、改善していかなければならないと考えていることは無いですか。	○ 生徒の日常生活を振り返らせ、学習への意欲化を図る。 ○ 「私たちの道徳 (p 206～209)」を紹介し、日本の伝統芸能が世界に誇れる文化であることを確認させる。
	2 学習のめあてを知る。			
	3 松竹芸能を知る。	30分	T 松竹芸能を知っていますか。	○ 松竹芸能が制作配給した代表的な映画

<p>展 開</p>	<p>4 資料を読み、竹次郎と松次郎の心情にふれる。</p> <p>5 劇場の売店で両親の手伝いをしているときの二人の心情を考える。</p> <p>6 座主として独立し初めての興行の前日に中止命令が下った時の竹次郎の心情を考える。</p> <p>7 当時の劇場を改革していこうとする二人の心情について考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸能事務所 ・ 映画会社 ・ 歌舞伎 <p>T 松竹芸能の創設者は鹿児島県にゆかりのある双子の兄弟が創立した会社です。資料を読んで、印象深いところに傍線を引きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知らなかった。 <p>T 小学生の二人は両親の仕事をどのような気持ちで手伝っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇場で大変な仕事だった。 ・ 両親の仕事を手伝わされるのは当時は当たり前だ。 ・ 自分も参加したい祭りで仕事をするのは辛い。 <p>T 自分が主催する興行の前日になって警察から中止命令が下されたときどのような気持ちだったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なんとか興行を認めてもらいたい。 ・ このままでは引き下がれない。 ・ いつか必ずリベンジしたい。 <p>T 観客本意の改革を進めなければならないと感じたのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰からも愛される娯楽にするため。 ・ 自分たちの理想に近づけたいと願ったから。 	<p>(男はつらいよ・釣りバカ日誌等)を紹介する。</p> <p>○ 松竹芸能を創設した双子は薩摩藩士に仕えた森田家の子孫であることを紹介する。</p> <p>○ 小学生の時期に両親の仕事の手伝いを必死に続けられた二人の心情を押さえる。</p>  <p>○ 竹次郎が 23 歳という若さで借金をしてでも興行を行いたいという強い意志を確認する。</p> <p>○ 伝統として残っている悪い習慣を改善していくための苦悩を確認する。</p>
----------------	--	---	---

終末	8	「私たちの道徳 (p 177)」に記入する。	10分	T 自分の理想とする生き方を貫くためには、どのような心構えが必要だろうか。	○ 今後の生徒自身の生き方について、日本が世界に誇れる伝統を引継、理想に近づけるための努力が必要であることを気付かせる。
----	---	--------------------------	-----	---------------------------------------	--

(2) 板書



6 実践後の評価

- 松竹芸能が手がけた日本を代表する映画作品を紹介することで、生徒の学習に対する興味・関心を高めることができた。
- 「私たちの道徳 (p 208)」に使われている松竹が提供した歌舞伎の写真を活用し、日本に古くから伝わる伝統芸能が今では世界中で親しまれていることを知らせる。
- 伝統として受け継がれるためには、それに携わる人々の理想とそれを実現させるための強い意志が必要であることを取り扱った。

《生徒の感想より》

- 松竹芸能が鹿児島にゆかりのある双子の名前の頭文字をとった会社であることを初めて知り誇りに思った。
- 楽しい事を仕事にしたいと考えていたが、理想とする仕事でもきつい思いをすることがあると思う。それに負けない強い気持ちをもち続けられるようになりたい。
- 新しいもので多くの人々の気持ちを引きつける芸能には、それなりの困難があったのだということが分かった。
- どんなことも辛抱強く続けることが、理想の実現につながると感じた。

「かごしま黒豚の父」 園田 兵助

(対象：中学1年生)

(出典：「不屈の心(中学生用)」 p91～p98)

1 主題名 「郷土に尽くす」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 4－(8) 郷土愛

地域に生きる一人としてふるさとを思い、社会に尽くした先人への尊敬の念を深めながら、ふるさとのために行動しようという実践意欲を高める。

(2) 資料名 「かごしま黒豚の父」 (関連資料「私たちの道徳」中学校 p200～p205)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

中学校の内容項目4－(8)は、「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」ことをねらいとしている。

現在は、グローバル化し、あらゆる場所のあらゆる情報が瞬時に世界を駆けめぐる時代である。また、都市化あるいは過疎化の進行により、郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向が見られる。しかし生徒にとって自分が育ったこの土地や家族・友達、学校や地域社会は、単に生活の場所としてだけでなく成長の過程で思考や行動に大きな影響を与える特別な存在である。将来この地を離れる者にとっても、心の拠り所となるであろう。郷土を愛し、大切にしようという思いは、郷土について知ることから始まる。

長年にわたって受け継がれてきた郷土の伝統や文化、先人の苦勞と努力を知ること、先人への感謝、郷土に対する誇り、郷土愛が生まれるものと考えられる。生徒一人一人が、地域社会の一員であるという自覚を持つことで、郷土の発展に努めようという意欲につなげたい。

郷土愛を育み、さらには自分の国の伝統、文化、他の国の文化を尊重する態度を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

中学生の時期は自己理解が深まり、自分なりの生き方についての関心が高まってくる。これから中学を卒業し、社会に出ていく中で主体性をもって生きていくためには、広い視野に立ちながらも自己がよって立つ基盤となるものが必要である。

そこで、まずは自分の生まれ育ったふるさとを知り、郷土に誇りを持つことで、ふるさとを愛し、自分の手で守っていこうという意識が必要である。



授業の様子

(3) 資料について【資料観】

本資料は、獣医の園田兵助さんがふるさと枕崎のために、個人で乳牛の飼育をしたり、枕崎の新しい産業として養豚の飼育を住民に勧めたりと、新しいことにチャレンジし続け、ふるさとを支え続けた姿を綴ったものである。

兵助さんの人のために献身的に努力する姿を知り、その行動の裏側にある兵助さんの気持ちを考えさせることで、ふるさとを思う気持ちやふるさとの発展のために頑張ろうとする兵助さんの気持ちに気付かせることができる。

また、地元鹿児島で育ち、鹿児島が誇る特産品として有名な黒豚を生みだした兵助さんの実践が、生徒自身のふるさとを思う気持ち高め、今後の実践意欲につながると考えられる。

4 授業の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

本資料は、事前に次の視点で読ませ、感想を持たせるとともに、視点と関係が深い部分にサイドラインを引かせておくようにする。授業中に、その部分を挙げさせ、兵助の経歴と実践をたどる。

ア 視点1：兵助さんが実践したことは何か。



イ 視点2：兵助さんは、どんな思いで様々な実践を行ったのか。



(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
黒豚の紹介	91	鹿児島の特産品、高級品として全国に知られていることをおさえる。
兵助の職業と様々な実践	92 ～ 94	<ul style="list-style-type: none">・ 獣医をしていた。・ 牛乳屋を始めた。・ 牛と牛舎の管理を徹底した。・ 枕崎に適した産業として養豚を始めた。 以上のことを押さえ、兵助さんが自身のためではなく、常に「人のため」、「枕崎のため」に尽力していたことに気付かせる。
枕崎のために、養豚を勧め、全国に先駆けて養豚組合を設立	95 ～ 96	努力を惜しまず、粘り強く養豚を勧めたり、販売経路をつくったりして、地道に黒豚をブランドとして定着させた兵助のふるさとを思う気持ちに気付かせる。

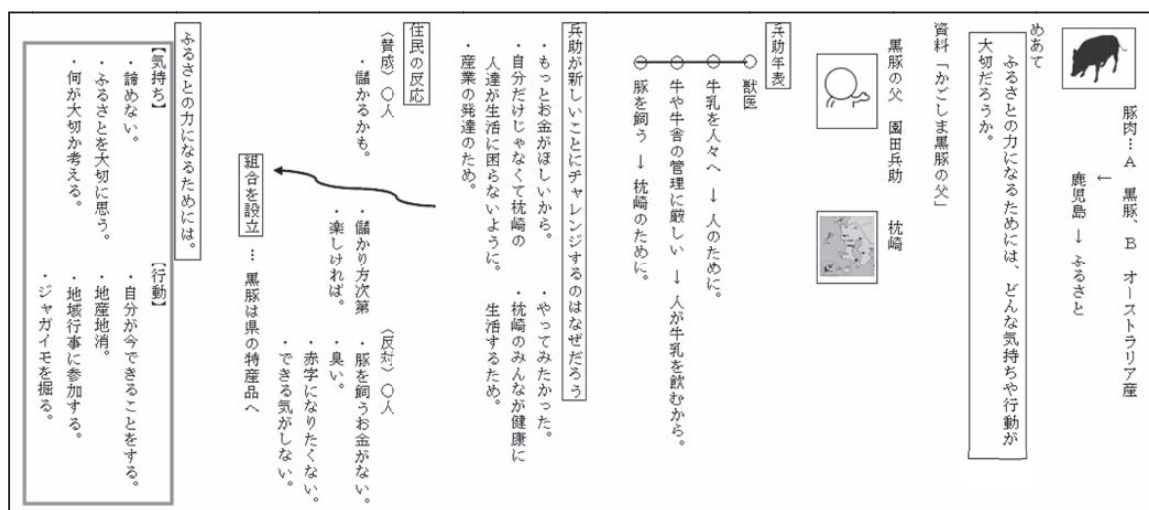
5 授業の展開

(1) 本時

過程	学習活動	時間	主な発問(T)と予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点
導入	<p>1 黒豚を紹介する。</p> <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ふるさとの力になるためには、どんな気持ちや行動が大切だろうか。 </div>	7分	<p>T これは何でしょうか。どこで作られていますか。</p> <p>T 鹿児島はみんなにとって、どんな存在ですか。</p> <p>・ふるさと</p>	<p>○ 黒豚について味、産地等を含めて紹介する。</p> <p>○ 全員でめあての読み合わせをさせる。</p>
展開	<p>3 兵助さんと枕崎について知る。</p> <p>4 下線を引いたところを発表して、兵助さんの実践をたどる。</p> <p>5 兵助さんが行動を起こすときの気持ちを考える。</p> <p>(1) 牛乳を販売する。</p> <p>(2) 牛や牛舎の管理に厳しかった。</p> <p>(3) 豚を飼い始め、住民に豚を飼うように進めた。</p> <p>6 獣医で安定した生活ができるのにも関わらず、新しいことにチャレンジする兵助さんの気持ちを考える。</p>  <p>7 新しいことを始めるとき、住民はどんな反応をしたらだろうか。</p>	26分	<p>T 兵助さんの職業は何ですか。どんなことをしましたか。</p> <p>・獣医</p> <p>・牛乳の販売など</p> <p>T 牛乳の販売はなぜ始めたのだろうか。何のために行ったのだろうか。</p> <p>・枕崎の人のために。</p> <p>T なぜ管理に厳しかったのだろうか。</p> <p>・その乳を人が飲むから。</p> <p>T なぜ、豚を飼うことにしたのだろうか。</p> <p>・枕崎の人たちの生活を安定させるため。</p> <p>T 獣医で安定した生活ができるのに、新しいことにチャレンジするのはなぜだろう。</p> <p>・もっとお金が欲しいから。</p> <p>・自分だけじゃなくて、枕崎の人達が生活に困らないようになってほしいから。</p> <p>T 兵助さんが豚を飼うことを勧めたとき、住民はどんな反応だっただろうか。</p> <p>・儲けられるならば賛成。</p> <p>・将来がわからないチャレンジには賛成しにくい。</p>	<p>○ 写真を提示し、簡単に紹介する。</p> <p>○ 獣医という仕事が安定した職業であることを確認する。</p> <p>○ 兵助さんがなぜ行動を起こすのかを推論させる。</p> <p>○ 板書で兵助年表を作り、兵助の行動を順に整理する。</p> <p>○ 時間をかけずに要点を押さえていく。</p>  <p>○ ワークシートに書かせる。</p> <p>○ 兵助さん役と質問する記者役に分かれ、ペアで役割演技をする。</p> <p>○ 反対があつたとしても、兵助が諦めず、組合を作るに至ったことを最後に確認する。</p>

展開	8 めあてについて考える。	7分		<p>T ふるさとの力になるためにはどんな気持ちや行動が大切だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを思う気持ち。 ・ゴミを拾う。 ・納税する。 ・地産地消を心掛ける。 ・ふるさとに生きる一人として自覚を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を閉じさせ、自分の気持ちと向き合って書かせる。 ○ ワークシートに書かせる。 ○ 机間指導を通じて、意図的指名を行う。
	9 教師の説話を聞く。			10分	

(2) 板書



6 実践後の評価

- ワークシートを活用することで、生徒の考えや気持ちを見取りやすくなり、授業展開(意図的指名)やその後の授業づくりに活用することができた。
- 導入部分で黒豚を写真で説明するだけでなく、食べて黒豚を知る実践も行った。生徒の興味は一層高まり、黒豚が鹿児島県民にとって身近なものであるため想起させられる機会も多く、授業後の郷土を意識した生活に対する持続性を高めた。
- 役割演技を記者会見風にすることで、主人公に成りきって発言できた。そのため、発言方法に感情表現が加えられたり、ジェスチャーとともに答えたりする姿が見られ、意見の多様化につながった。
- 板書に心情曲線や兵助年表(兵助の実践まとめ)を取り入れることで、資料内容を容易に理解・整理することができ、振り返りや思考の場面で活用できた。
- 住民の反対する気持ちを考えさせることで、兵助の苦労が大きかったことがわかり、郷土を強く思い、熱心に活動した兵助の努力を感じ取ることができた。

《生徒の感想の一部》

- ・ 改めて、郷土の良さを実感した。自分やみんなのためにも、大切にしたい。
- ・ ふるさとの力になるのは難しい気がしていたが、小さなことから始めれば簡単なこともある。家の手伝い、ゴミ拾い、地域行事への参加などから始める。

「志をもって生きる」
松 寿 院

(対象：中学2年生)

(出典「不屈の心（中学生用）」p129～p138)

1 主題名 「やりぬく強い意志」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(2)希望，勇気，強い意志

より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

(2) 資料名「志をもって生きる」 (関連資料 「私たちの道徳」中学校 p16)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

人間としてよりよく生きるには，目標や希望をもつことが大切である。「目標」には，必ずしも生涯をかけて達成するといった遠大なものだけでなく，身近で日常的な努力によって達成できるものもある。日常生活の中のほんの小さな目標であっても，それが達成されたときには満足感を覚え，自信と勇気が起こるものである。このような達成感は，自己の可能性を伸ばし，人生を切り拓いていく原動力となり，次のより高い目標に向かって努力する意欲を引き起こすことにもなる。このことを積み重ねる中で，人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が養われ，生きることへの希望も育まれてくる。

そこで，夢や目標を達成するまでには，困難や挫折に遭遇することも考えられるが，強い意志や忍耐によって乗り越えようとする自分をつくることの素晴らしさについて考えさせることは意義あることだと考える。

(2) 児童生徒の実態【児童観（生徒観）】

中学生の時期は，自分の好むことや価値を認めたものに対しては意欲的に取り組む態度が育ってくる。また，希望と勇気をもって生きる崇高な生き方に憧憬をもつ年代でもある。しかし，障害や困難に直面すると簡単に挫折し物事をあきらめてしまうこともあり，理想どおりにいかない現実に悩み苦しむこともある。更に，変化の激しい社会であることから，中学生にとっては目標を立てにくい状況にもあるといえるが，これからの中学校生活の中で，夢や目標をもち続けることの素晴らしさと，その達成のための強い意志や最後までやり抜くことの大切さに気付かせたい。

ア 特別活動

中学校生活も後半に入り，生徒会活動をはじめ，部活動や行事など2年生が中心となって活動するものが増えた。生徒の中には，自分の立場を自覚し積極的に自分を高めたり学校に貢献したりしようとする姿が見られる生徒が出てきた。一方で自分自身のことについて考えることができず，その場限りの楽しさを求めてただなんとなく生活している生徒も見受けられる。本時を通して，目標を達成させるためには，困難に直面しても，諦めずにやり抜く強い意志や態度が必要であることを感じ取らせたい。また，自分の生活を振り返り，他者の意見を取り込みながら目標達成に向けて努力する気持ちを育みたい。

イ 総合的な学習の時間

生徒たちは職場体験学習やこれまでの進路学習を通して、自分の将来の夢や理想について考えてきた。その中で、自分の夢や理想を強く求める反面、自分の置かれている現実への認識が不十分で自分を過大もしくは過小評価して、自分を見失ったり、妥協したりしてその理想が達成できないと意欲までも喪失してしまう生徒も少なくない。そうした中で、どんな障害や困難に直面しても、夢や理想の実現に努めている人の姿を通して、自分であきらめずにやり抜く強い気持ちの大切さを理解し、自らの人生を自らの手で切り拓いていく態度を育てたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、江戸時代に種子島の発展と人々の暮らしのために尽くした松寿院を紹介した資料である。松寿院は、それまでの「姫様」のイメージをひっくり返すもので、種子島のために島中に足を運び、自分のすべき事業と、その方策を探っていた。松寿院の行った事業は、かなりの数に上がり、これを行うに当たって松寿院は、事前に計画を十分練り、強い意志をもって決断したと思われます。また、松寿院は驚くほど数多くの家臣の家を訪問しています。松寿院が、それだけ家臣を大事に思っていた気持ちの表れも見えます。

指導に当たっては、具体的な生活の中で目標を達成した経験を振り返らせたり、日常的な努力で達成できる目標をもたせたりすることが大切である。そして、達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせることを通して、希望と勇気が生まれてくることを自覚するよう指導することが重要である。また、生涯をかけての理想や目標をもつことが、日々の生活を充実することにつながることに気付かせることも大切である。そのためには、広い視野に立って、ものごとを正しく判断し、目標を実現するための諸条件を検討しながら希望と勇気をもって実行するとともに、困難に屈しないでねばり強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度を育てるように指導することが必要である。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

本資料は、事前に資料を読ませておき、内容を把握させておく。その際、次の視点で読ませ、サイドラインを引かせる。

ア 視点1：松寿院が、どんな気持ちで種子島の事業を手がけていたのかを考える。

イ 視点2：多くの事業を手がける原動力はどんなことか考える。

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
種子島に移り住んできた時代	130 ～ 132	松寿院は、まだお腹が大きい内に種子島に渡り、島に来てまもなく、島中を巡視している。かなりの時間がかかる日程で、体への負担も大きい中でも島中を巡視した松寿院の姿を押さえる。
数々の事業に取り組んでいる時代	133 ～ 136	松寿院の行った事業は、かなりの数に上ります。その中でも三大事業と呼ばれる事業を成功したときの気持ちを考えさせる。
松寿院の志について	137	多くの事業を手がける原動力を考え、目標へ向かって強い意志をもって努力することの大切さを気付かせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 自分の目標について考える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標達成を目指す上で、どんな気持ちや行動が大切だろうか。</p> </div>	5分	<p>T 学習や部活動で目標を てていますか。また、目 標を達成する中で困難に 直面したらどうします か。</p> <p>T 目標達成を目指す上で どんな気持ちや行動が大 切だろうか考えてみよう。</p>	<p>○ 学校生活や日常生活を過ごす中の自分の目標について考えさせる。</p>
展開	<p>3 資料「志をもって生きる」を読み、松寿院の生き方について話し合う。</p> <p>(1) 島中を巡視したときの松寿院の気持ちを考える。</p> <p>(2) 数々の事業が成功したときの松寿院の気持ちを考える。</p> <p>(3) 多くの事業を手がける原動力を考える。</p>	35分	<p>T 島に来てまもなく、島中を巡視した松寿院はどんな気持ちだっただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の人々とふれあい、島民との距離を縮めたい。 ・島の様子を知り島の振興に力を注ぎたい。 <p>T 数々の事業が成功したときの松寿院はどんな気持ちだっただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島民の協力があったので感謝したい。 ・家臣たちがよく働いてくれた。 <p>T 多くの事業を手がける原動力はどんなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子島の人々の生活を少しでも豊かにしたい強い思いや強い意志。 ・自分を温かく受け入れてくれた種子島に恩返しをしたい感謝の気持ち。 	<p>○ 写真を掲示し、人物と作品を紹介する。</p> <p>○ 島に来てまもなくの松寿院の気持ちを押さえる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○ 周りの家臣や島民の協力があった初めて成功した松寿院の気持ちを押さえる。</p> <p>○ 自分のことより今までの感謝の気持ちが物事の成功につながる原動力となることを気付かせる。</p>

	4 自分の目標を達成するためには、どうすればよいか考える。		T 自分の目標を達成するためには、どうすればよいただろうか。 ・一度決めたことは絶対にやり抜く。 ・どんな困難があってもあきらめない気持ちが大切だ。	○ 目標を実現するためには、困難に屈しないでねばり強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度が大切であることを気付かせる。
終末	5 「私たちの道徳」を読み、考える。(p16) 6 授業の感想を書く。	10分	T 「私たちの道徳」を読んでみよう。 T 感想用紙に今日の感想を書きなさい。	○ 目標を目指しやり抜く強い意志を「私たちの道徳」から感じ取らせる。 ○ 授業の感想をワークシートに書かせる。

(2) 板書

やりぬく強い意志 目標達成を目指す上でどんな気持ちや行動が大切だろうか。	「志をもって生きる」 松寿院 の写真 松寿院	一、島に来てまもなく、島中を巡視した松寿院はどんな気持ちだっただろうか。 ・島の人々とふれあい、島民との距離を縮めたい。 ・島の様子を知り島の振興に力を注ぎたい。 二、数々の事業が成功したときの松寿院はどんな気持ちだっただろうか。 ・島民の協力があって成功したので感謝したい。 ・家臣たちがよく働いてくれた。 三、多くの事業を手がける原動力はどんなことだろうか。 ・種子島の人々の生活を少しでも豊かにしたい。 ・温かく受け入れてくれた島に恩返しをしたい。	目標を達成するためには、どうすればよいただろうか。 ・一度決めたことは絶対にやり抜く。 ・どんな困難があってもあきらめない気持ちが大切である。
---	---------------------------------	---	---

6 実践後の評価

- 資料の文章量が多いので、資料を読みながら松寿院の生き方や考え方の中で自分が共感したところをサイドラインを引かせ、その後の展開を考えやすいようにするよう工夫した。
- 時代の背景を知る上でイメージがなかなかつかない場面をICT機器を取り入れて、写真や地図などを提示することで、その背景にある道徳価値を追求しやすくなった。

《生徒の感想より》

- 大きな困難があったとしても、どうしたらできるようになるか、乗り越えられるか考えて、自分の直すべきところに気付いて、すぐ行動に移したいと思う。絶対暗くならず、前向きな気持ちを忘れないようにしていきたい。頑張った分だけあとで良いことが返ってくることを信じる。
- 私は、目標達成をする上で諦めないことがとても大切だと思いました。でも、目標達成するには周りの人達の協力が必要なんだということが分かりました。だから、目標達成するには感謝の気持ちを忘れないことが大切だと思います。

「あきらめなかった仙右衛門」

小野仙右衛門

(対象：中学1年生)

(出典「不屈の心(中学生用)」p139～p146)

1 主題名 「困難を乗り越える強い意志」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 1－(2)強い意志

小野仙右衛門の生き方を通して、目標や失敗にくじけずに、希望をもってねばり強くやりぬこうとする態度を育てる。

(2) 資料名 「あきらめなかった仙右衛門」

(関連資料 「私たちの道徳」中学校 p16～21)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

中学校の内容項目1－(2)は、「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」ことをねらいとしている。

中学校に入学して半年が経った。入学当時は周囲の人間関係や係活動の内容が分からず、学校生活の中で積極的に立候補する様子が見られなかった。二学期に入り、お互いのことを理解し始めているものの、失敗や不安を恐れて、自主的に活動する姿が少ないように思える。

また、中学生の時期は、障害や困難に直面すると簡単に挫折し物事をあきらめてしまうこともあり、理想どおりにいかない現実に悩み苦しむこともある。指導に当たっては、これまでの具体的な生活の中で、目標を達成した経験を振り返らせて、後期の専門部活動に意欲的に取り組む姿勢をもたせたい。中学生として、自我に目覚め、自己の確立を遂げようとするこの時期だからこそ、どのような小さな行為でも、責任をもって最後まで誠実に実行することの大切さを学ぶことが大変意義深いと考え、本主題を設定した。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

生徒の経験をアンケートで見取り、全体に示すことで、任された係活動にはしっかりと取り組んでいるが、係を決める際に自主的に立候補する姿が少ないこと、やり遂げたときの成就感よりも、失敗や不安を恐れる気持ちの方が大きいことに気付かせる。このような過去の経験を振り返って、問題意識を高めながら、本時のめあてを設定する。また、ワークシートに自分の思いや意見を書かせることで、生徒一人一人の考え方や感じ方を知り、考えのよさや変化を見取ることができるようにする。机間指導を通じて意図的指名を行うことで、多様な考えを導き出し、いろいろな活動に対して、積極的に立候補しようという態度を養えるように心掛けたい。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、長崎堤防を作った小野仙右衛門の話である。二代藩主島津光久から川内川流域の高江地区の水田開発を任されたものの、洪水によって工事が思うように進まない。さらに、工事を始めて数年経っても堤防は築けず、工事の費用や材料もどんどん乏しくなっていくたり、病気で倒れる人や怪我をする人など、多くの犠牲者が出たりし、携わる人も少なくなっていく。しかし、仙右衛門は何度もこのような困難に直面しながらも、そこで生活する高江の人々のために、崖の岸壁に工事を絶対に完成させるのだという強い意志を込めて『心』という文字を刻み、自身の信念を貫き、堤防を完成させた。

また、困難な土木工事には、人柱伝説がついてまわるが、この長崎堤防でも「袈裟姫伝説」として語り継がれている。「横はぎの着物を着た娘を人柱にたてよ。その流れのままにそって堤防を築け」と告げる夢を見た。一人娘の袈裟が犠牲になりこの工事が完成したという伝えもある。

本時では、仙右衛門の心の葛藤に迫りながら、堤防を完成させたときの成就感を味わわせたかったので、一人娘を犠牲にしてまでもこの工事を完成させたかった仙右衛門の気持ちは扱わなかった。

4 授業の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

(2)のように資料で取り上げる場面を限定し、時間短縮をはかる。今回は、袈裟姫伝説を扱わない方向で授業を進めたので、事前に読ませることはしなかった。

また、サイドラインは、授業の範読の中で引かせ、印象に残った理由とともに発表させる。

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面は、下表のとおりであるが、袈裟姫伝説を扱わなかったため、学校独自で文章を再構成した資料を配布して授業を行った。また、「小野仙右衛門」「長崎堤防」など、知っている生徒が少なかったため、写真やイラスト等を用意することで、イメージをもって理解できるように工夫した。

また、内容では「もし自分が仙右衛門だったら工事を続けたか、あきらめたか」と討論させ、価値葛藤の場面も設けた。




取り上げる場面	ページ	指導内容
藩主から新田開発を任されたときの気持ち	139	仙右衛門の人柄などを理解させる。
治水工事がうまくいかず、くじけそうときの気持ち	140 ～ 142	「自分が仙右衛門ならどうするか」あきらめようとする気持ちと頑張ろうとする気持ちに気付かせ、討論させる。
岩肌に「心」と刻んだときの気持ち	142 ～ 143	仙右衛門の強い意志について考えさせる。
長崎堤防が完成したとき	143 ～ 144	目標を達成できた仙右衛門の成就感に気付かせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動	時間	主な発問(T)と予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点
導入	1 今までに、目標を立てたが挫折してしまった経験について話し合う。	5	T 目標を立てたのに、最後までやり遂げられなかったことと、その理由は何かと思うか。	○ お互いの失敗経験を話すことで、気持ちの共有化を図り、めあてに対する興味・関心を高める。
	2 本時のめあてを確かめる。		○ 本時のめあてを明確にすることにより、生徒が学習に見通しをもてるようにする。	
目標を達成するには、どのような気持ちが必要なのだろう。				
展開	3 仙右衛門の気持ちを考えながら範読を聞く。	20	T 資料を読んで印象深いところに線を引こう。	○ 仙右衛門の気持ちが分かるところに線を引かせる。
	4 仙右衛門の気持ちについて考える。 (1) 藩主から新田開発を任されたとき。		T 藩主から新田開発を命じられたとき、何を考えただろう。	○ 年齢や経歴を考えさせ、仙右衛門の思いを考えさせる。
	(2) 治水工事がうまくいかないとき。 ・くじけそうなとき。 ・崖の岩肌に「心」と刻んだとき。		T 何年たっても堤防が崩れてしまうときの仙右衛門はどんなことを思っていただろう。 ・もう無理だ。やめよう。 ・村人のために頑張ろう。	○ あきらめようとする気持ちと、頑張ろうとする気持ちの葛藤について討論させ、それを乗り越えた仙右衛門の心に共感させる。
(3) 長崎堤防が完成したとき。	T 完成した長崎堤防を見たときの仙右衛門はどんな気持ちだっただろう。 ・あきらめなくてよかった。 ・村人の暮らしが助かる。 ・藩主の命令を守ることができた。	○ 完成前の心の葛藤を振り返り、目標を達成できた仙右衛門の達成感に共感させる。		
	5 目標を達成するには、どのような気持ちが必要か考える。	15	T 目標を達成するには、どのような気持ちが必要なのだろう。	○ 事前アンケートを基に例を挙げ、発表しやすい環境をつくる。
終末	6 教師の説話を聞く。	10	T 本時の授業の中で感じたことや考えたこと等の感想を書こう。	○ 現在の長崎堤防に触れ、仙右衛門の業績と恩恵にも共感させる。
	7 授業の感想を書く。		○ 授業の感想をワークシートにまとめさせる。	

(2) 板書計画

<p>◎ 目標を達成するには…</p> <p>○ 堤防が完成したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やり遂げてよかった ・ 農民が助かる ・ うれしい  	<p>心</p> <p>完成するまであきらめないぞ</p> <p>あきらめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう無理だ ・ 材料も資金もない ・ 面倒くさい <p>あきらめない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農民を助けない ・ がんばろう ・ 藩主の命令だから 	<p>資料名 めあて</p> <p>目標を達成するには、どのような気持ちが必要なのだろう。</p> <p>仙右衛門の気持ちを考えよう。</p> <p>○ 藩主から新田開発を任せられたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までと同じように成功させられるだろう。 ・ 高江の人たちのために頑張るぞ。 ・ もう六十一歳なのだが… <p>○ 失敗が続いていたとき</p> 
--	---	--

6 実践後の評価

- ・ ワークシートを活用することで、生徒の考えや気持ちを見取りやすくなり、授業展開（意図的指名）やその後の授業づくりに活用することができた。
- ・ 板書に写真やイラストなどを提示することで、資料内容を理解し整理したり、イメージしたりすることができ、振り返りや思考の場面で活用することができた。また、価値葛藤を行うことで、自分自身の意見を発表するだけでなく、他の人の意見も聞くことができ、思考の深まりが見られた。

（生徒の感想文より）

- 授業を受けて、私はこれから勉強を毎日し、テストでも良い点数をとれるように頑張ろうと思った。
- できるだけ自分から積極的に行動しようと思った。また、今、やっている習い事はすべて中学卒業するまでやめないと決めました。
- 部活動では、レギュラーになれるように毎日の練習を一生懸命取り組もうと思った。また、自分の苦手な教科をそのままにせずに、勉強しようと思った。

**「いにしえの道を」
島津忠良，新納忠元**

(対象：中学2年生)

(出典「不屈の心(中学生用)」p147～p156)

1 主題名 「時と場に応じた言動」

2 ねらいと資料

(1) ねらい 2－(1)立場を考えた礼儀の大切さ

言動の根底にある相手に対する礼儀の意義を深く理解し、日常生活において時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。

(2) 資料名 「いにしえの道を」 (関連資料 「私たちの道徳」中学校 p51)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

礼儀の基本は、相手を一個の人格として認め、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となってはじめてこの価値が認められる。したがって、敬愛の気持ちを伝えるためには、相互に承認された一定の形が必要になり、具体的には言葉遣い、態度や動作として表現される。これは人間関係や社会生活を円滑にするために創り出された優れた文化の一つとすることができる。しかし、どれほど形ができていたとしても人間尊重の精神がなければ礼は通じない。また、相手を思う気持ちがあったとしても、時と場にあふさわしくない言動は人々の間では受け入れられないであろう。そこで、時と場に応じた適切な言動ができるために、特に内面的な指導と郷土に伝わる「郷中教育」と関連付けながら、その意義を深く理解させたい。

(2) 児童生徒の実態【生徒観】

この時期は、礼儀の大切さをある程度理解できていても、慣習や伝統に対する抵抗感もあり、時と場に応じた適切な言動が十分できているとは言えない。例えば相手を思う気持ちがあっても、その場にふさわしくない言動であれば相手に受け入れてもらえない。資料を通して、時と場に応じた適切な言動の大切さについて気付かせたい。また、郷土「鹿児島」に昔から伝統的な教育として根付く「郷中教育」については、郷土教育の視点から、特別活動及び社会科での学習内容と関連付けられる。

(3) 資料について【資料観】

本資料は、現在の日本の原型を創り出した明治の志士たちに大きく影響を与え、今も鹿児島県の教育へと受け継がれている「郷中教育」の原点をつくった師弟、島津忠良と新納忠元、それぞれの人物がその生い立ちやエピソードを基に描かれている。

一家の主としての将来を見据え厳しく育てられた忠良は、一度衰えていた島津を復興させたり、何よりも教育の重要性を「日新公いろは歌」にまとめ、新納忠元をはじめ、多くの優秀な武将を育てた。新納忠元は天下統一を目指す豊臣秀吉が島津征伐に乗り込んだとき、自分の意志とは反して降伏を決意しなければならない。その時の秀吉とのやり取りの中では、立場をわきまえた言動を頑なにとり続けた上に、機転を利かせ、その場を和ませることができ、秀吉を大変喜ばせる。

二人が受けた厳しい教育の中で培われた相手を敬う気持ちが形となり、礼儀や時と場に応じた言動になったことに気付かせたい。

4 指導の展開にあたって

(1) 事前に資料を読ませるポイント

事前に次の視点で読ませ、感想をもたせておくようにする。

ア 視点1：郷中教育の歴史とそこで大切にされていたのはどのようなことか。

イ 視点2：秀吉の島津征伐に対して、十分な勝機があると考えていたにもかかわらず、なぜ、忠元は降伏を決断したのか。

(2) 取り上げる場面と指導内容

取り上げる場面	ページ	指導内容
日新公いろは歌をまとめた場面	150 ～ 151	いろは歌の最初の一首に込められた忠良の教育に対する思いとはどのようなものだったのか考えさせる。
忠元の観察眼に忠良が気付く場面	151 ～ 152	忠元に自分の知識を自慢しない謙虚さがあつたのはどのように教育されたからか考えさせる。
秀吉が忠元の心構えに感心する場面	153 ～ 154	自分の意に反しても降伏する忠元の気持ちと秀吉に関心させた心構えは、どのようにして培われたのかを考えさせる。

5 授業の展開

(1) 本時

過程	主な学習活動等	時間	主な発問 (T) と予想される児童生徒の反応 (・)	指導上の留意点
導入	<p>1 「郷中教育」について知っていることを発表する。</p> <p>2 学習のめあてを確認する。</p>	10分	<p>T 「郷中教育」とは、いつごろ、どこで行われていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の鹿児島 ・ 江戸時代の薩摩藩 <p>T 時と場に応じた言動をとれるようになるには、どのような心構えが必要なのだろうか。</p>	<p>○ 特別活動や社会科の郷土教育において学習したことを想起させる。</p> <p>○ 生徒の日常生活における自分の言動について、振り返らせる。</p>
	<p>時と場に応じた言動をとるためには、どのような心構えが必要なのか。</p>			
	<p>3 忠良と忠元の関連年表で時代的な背景をつかむ。</p>			<p>○ 時代的な背景及び二人の年齢的な師弟関係にあることをおさえる。</p>

展 開	4 資料「いにしえの道を」を読む。	30 分	T 登場人物の言動で感心できる部分に傍線を引きなさい。	○ 歴史上の人物が置かれた状況や立場を想像しながら読ませる。
	5 いろは歌の最初の一首に込められた忠良の思いを考える。		T 忠良の詠んだ「いにしえの・・・」の歌にはどのような思いが込められているか考えよう。 ・ 昔の人のどんな名言でも行動にうつさなければ意味がない。 ・ 深い意味のある言葉を自分の事としてとらえる。	○ 現在の教育制度とは違い、それぞれの地域で独自の教育が行われていた時代的な背景を確認する。
	6 忠元の謙虚さはどのように教育されていたからか考える。		T ほめられても、ほうびももらわないのはどうしてだろうか。 ・ 欲がないから。 ・ 謙虚だから。	○ 武将として志の高さに気付かせたい。
	7 秀吉に降伏をしたときの気持ちを考える。		T 自分では勝機があると考えていても、戦わずに負けを受け入れた時の気持ちはどのようなものだっただろうか。 ・ 悔しい。 ・ 戦いたい。 ・ 昔は位の上の人には絶対従わなければいけなかった。	○ 忠元の判断を指示できるか、指示できないかをグループで話し合わせる。
終 末	8 鹿児島教育について考える。	10 分	T 我々の郷土「鹿児島の教育」の歴史を継承していくためには、どのような気持ちが必要か考えよう。	○ 日常生活を振り返らせるとともに、郷土に引き継がれている文化の継承についての関心・意欲を育む。
	9 「私たちの道徳（p51）」に記入する。		T これからの生活で気をつけたいことを考えてみよう。	○ これからの生活への意欲化を図る。



(2) 板書

郷中教育
江戸時代初期
薩摩藩で始められた
山坂達者

↓

青少年の心
身を鍛える


めあて

時と場に応じた言動をとるためには、どのような心構えが必要なのか

資料名

いにしへの道を

人物関係図



将来の薩摩藩を託されている
厳しく躰けられた

いにしへの道を聞きても唱えても
わが行いにせずばかひなし

「どんなおもいが
込められている
のか」

褒められても褒美をもらわないのはどうしてか?

- ・昔の人のどんな名言でも実行しなければ意味がない
- ・学んだことを実践してこそ意味がある。

そのように教育されていたから
謙虚な性格だったから

勝機があるにも関わらず敗戦を受け入れた時の気持ち

- ・悔しい。
- ・戦いたい。
- ・仕方がない。

↓ 秀吉への対応 ↓

- ・場を和ます
- ・機転が利いている

これからの生活で大切にしたいこと

- ・学んだことは実践する。
- ・日本の伝統に息づく礼儀。
- ・時と場に応じた言動。

6 実践後の評価

- 鶴岡第二中学校との盟約校としての活動を振り返らせ、「徳の交わり」が今もなお、続いていることを取り上げたり、郷土学習「ふるさと探訪」(1年時)の学習を振り返らせることで、生徒にとってより身近な題材となった。
- 補足説明を加えながら、時代的な背景を確認させることで、登場人物が置かれた状況を理解しながら考えさせることができた。
- 「日新公いろは歌」(現代語訳)をいくつか紹介し、今の自分の心に染みる一句を見つけさせることで、当時の状況を自分たちに引き付けて考えさせることができた。
- 忠元の判断について、「指示できるか、指示できないか」をグループで話し合わせ、結果をホワイトボードを使って発表させることにより、考えを深めさせることができた。



《生徒の感想より》

- 郷中教育は、西郷隆盛や大久保利通などが作ったものだと思っていたけれども、その教育で育ったから、今の日本を作ることができたのだと知った。
- 昔から鹿児島(郷土)に伝わる伝統として、とても誇りに思う。
- 昔は今よりももっと厳しくしつけられていたのだと感じた。
- 自分の気持ちをがまんしてでも、命令に従い、その状況でも機転を利かせることができたのは、それまでの教育のおかげだと思う。
- 全く同じような教育は無理だと思うが、自分なりに実践できそうなことは実践していきたい。